



まだ誰も知らない安心を、ともに。

自動車の走行データを活用した「交通安全 EBPM 支援サービス」を開始 ～地方公共団体における交通安全対策の立案・効果検証を支援～

2022年4月28日

MS&ADインシュアランスグループのあいおいニッセイ同和損害保険株式会社（代表取締役社長：新納 啓介）は、テレマティクス自動車保険契約を通して蓄積した地球約138万周分^{※1}の自動車走行データを活用し、地方公共団体の交通安全対策の立案・効果検証を支援する「交通安全EBPM^{※2}支援サービス」を2022年5月より提供を開始します。

※1 2022年3月末時点。

※2 Evidence-Based Policy Making（証拠に基づく政策立案）の略。政府にて推進されており、政策効果の測定に重要な関連を持つ情報や統計等のデータの活用が求められている。

1. 背景

当社はテレマティクス^{※3}自動車保険のパイオニアとして、2018年よりテレマティクス自動車保険の販売を開始しました。2022年3月にはご契約台数が140万台を突破するなど、テレマティクスが普及することで大量の自動車走行データが蓄積されてきました。また、「CSV×DX^{※4}を通じて、お客さま・地域・社会の未来を支えつづける」ことを目指しており、お客さま・地域・社会とともにリスクを削減し、社会・地域課題解決に資する商品・サービスの検討を進めてきました。

今般、社会・地域課題解決に向けた新たな価値提供として、地域の危険箇所を可視化する「交通安全マップ」^{※5}を開発し、2022年4月より全国の地方公共団体へ提供を開始しました。また、交通安全マップによる危険箇所の「現状把握」とどまることなく、把握した危険箇所を分析し、具体的な交通安全対策の「立案」と「効果検証」が可能な「交通安全EBPM支援サービス」の提供を2022年5月より開始します。

※3 「テレコミュニケーション」と「インフォマティクス」を組み合わせた造語で、カーナビやGPS等の車載器と移動体通信システムを利用して、様々な情報やサービスを提供する仕組み。

※4 CSV・・・Creating Shared Value（社会との共通価値の創造）

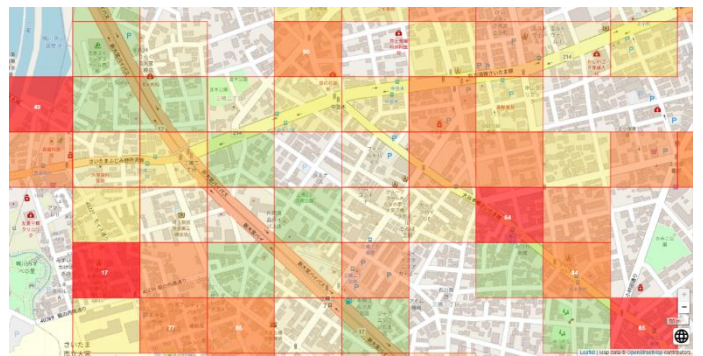
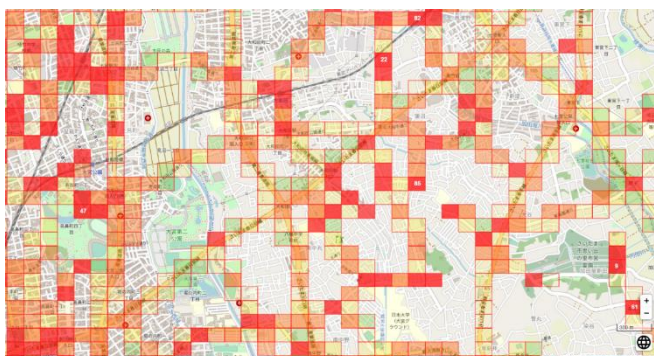
DX・・・Digital Transformation（データやデジタルを活用し、価値提供を変革させること）

※5 個人情報を含まない形で自動車走行データの加工・統計化を実施。

2. 取り組み概要

（1）「交通安全マップ」の特長

当社のテレマティクス自動車保険のデバイスから取得した走行データを活用し、交通量に対して急ブレーキなど危険な運転挙動の発生頻度が高い地点を最小約120mメッシュで地図上に可視化します。「危険挙動発生件数」のみでは、幹線道路と生活道路など規模の異なるエリア間の比較は困難です。しかし、発生件数に加え、「交通量」のデータも活用した「危険挙動発生率」による危険箇所候補の判別を行うことで、規模に依らずに評価することが可能です。また、当社の走行データは約1秒間に一度の頻度でデータ取得を行っており、一台一台の車両の挙動を詳細に分析できます。



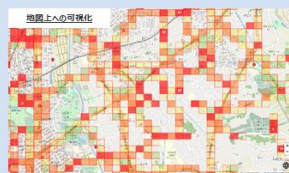
(2) 「交通安全EBPM支援サービス」の内容

「交通安全マップ」から選定した危険箇所候補の詳細分析を通じ、最適な交通安全対策メニューをご提案します。加えて、対策メニューの効果検証を通じ、政策の継続・見直し等をご提案し、政策の有効性向上を支援します。これら「交通安全EBPM支援サービス」を通じて、機動性の高い、また持続性のある「安全・安心なまちづくり」の実現に寄与します。

STEP1

危険箇所候補の選定

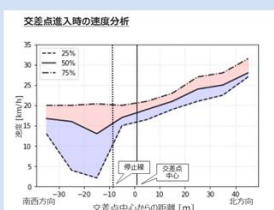
テレマティクスデータの地図上への可視化により、地域の危険箇所候補を選定



STEP2

危険箇所の分析

STEP 1 で選定した候補地点の詳細分析を実施



STEP3

対策

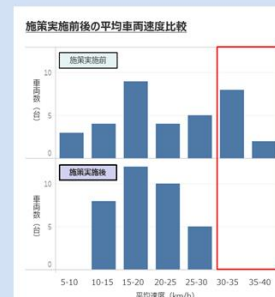
STEP 2 の分析結果をふまえて交通安全対策の施策を提案



STEP4

効果検証

STEP 3 の施策実施前後での時系列分析による効果検証



4月提供開始

5月より順次開始予定

3. 今後の展開

今後、事故データの活用、新たな危険運転挙動の定義化、国立大学法人埼玉大学との産学連携等を通じて、本サービスの更なる高度化を図っていきます。加えて、地方公共団体だけではなく、交通安全対策（標識設置等）に関連する事業者との協業も進めていきます。

また、本サービスを通じて、お客さま・地域・社会とともに共通価値を創造し、社会・地域の交通安全に関する課題の解決への貢献を目指します。

以上

当社は、社会との共通価値を創造し、目指す社会像である「レジリエントでサステナブルな社会」を実現するため、SDGs（持続可能な開発目標）を道しるべとし、地域の皆さまに貢献する活動を行ってまいります。



あいおいニッセイ同和損保は、「CSV×DXを通じて、お客さま・地域・社会の未来を支えつづける」ことを目指しています。最先端・独自の技術やデジタル・データの活用、特色あるパートナーとの協業により、お客さま・地域・社会が真に求める新たな価値を提供していきます。また、国内外のあらゆる事業を通じて、お客さま・地域・社会とともに社会・地域課題の解決にグローバルに取り組めます。

